



教育厚生委員

令和 6 年度行政視察報告書

1 5 番 永岡 康司

訪問日 令和 6 年 7 月 1 0 日 (水)

訪問校 埼玉県八潮市北條小学校

訪問の目的 英語指導力事業における外国語教育について

説明 山村一晃校長

視点 導入の目的 新しい外国語教育が始まる小学校において、参加教員が過重な負担となることなく授業で英語教育を行う際に必要な英語力を含めた実践的な指導力をオンライン研修で身につける。

平成 19 年に八潮市小中一貫教育推進事業研究委託指定を受け、小学校 1 0 校、中学校 5 校が認定された。各校でブロック研究会を設置、教育に対する問題点を提出し、ブロック研究発表会を行った。教育委員会では、小学校から中学校への一貫教育指導導入から 10 年、生徒と教員の交流に力を注いだそうです。教員の指導力は、一定の能力を持って、英語を理解して話ができること、学ぶ楽しさを理解させること、年 40 回位 English Day (金曜日) を設けて英語会話の楽しさを教えている。

昼食の時は語学指導補助員と会話しながら会食している。

最近の子どもの家庭での英語の楽しみ方は、3 歳から 4 歳位は絵本での英語、以降はゲーム機による英会話や英語の音楽を聞いて学んでいるように見えます。

子ども(幼少時)の時から、英語に親しむ環境を整備することが大事なかなと思いました。

訪問日 令和 6 年 7 月 1 0 日 (水)

訪問先 埼玉県草加市リサイクルセンター

目的 不用品リユース事業の現状と課題について

視点 市内の各家庭で不要になっている家財や家具を無償で引き受け、有償(格安)で市民に譲渡する(何百円から数千円)程度の比較的良い家財が売れているそうです。家電製品や自転車等の修理が必要となるような品は受け入れないようです。ただ、リユースする家財や家具を展示する場所が狭く、展示場所の確保が必要とのことでした。

訪問日 令和6年7月11日（木）  
訪問場所 群馬県高崎市タワー美術館  
目的 複合施設内美術館の現状と課題について  
説明者 深星館長 副館長 事務局員

美術館のコンセプト 高崎市タワー美術館は、平成13年11月、高崎美術館に次ぐ市立美術館として、JR高崎駅東口前の「高崎タワー21」内に開館した。日本画を中心とした展覧会を年間5回から6回開催している。日本画家を招いての講演会や、学芸員による作品解説会を実施、日本画の教育普及活動と、地域と関わりのある日本画家の資料調査・収集に取り組んでいる。文化交流拠点として、駅から徒歩圏に位置する東西の美術館で、総合的な美術鑑賞の機会を提供し、地域社会に対する文化貢献に努めている。

美術館の現状 令和4年度 歳入 2,785千円 歳出 87,509千円 △84,724円  
収支に関する市民や議会などの意見はない

複合施設のメリット 複合施設内に美術館を設ける事で、愛好家だけでなく、他の施設利用者も美術作品に触れる機会が増えた。施設内の会議室を借りる事ができ、多数参加する講演会や会議などに利用して帰りに見学する事ができる

複合施設デメリット 美術館には、展示スペースや空調設備及照明など美術館特有の要件が必要となるが、複合施設では美術館としての制約が生じる

イベントについては、学芸員が案を作成、館長が採点（計画を決める）、最終的には市長に相談し予算の計上を認めてもらう。

美術館の管理は教育委員会の管轄でなく、市長直属の部署（総務課内）にある、予算がつけやすい。

伊豆市の美術館建設の課題は、所蔵点数（121点）では少なすぎる、一回の展示に40点から50点は展示する。年4回展示会を行うと将来的には生きずまる。121点とプラス展示物の確保が必須となる。課題として、美術館と温泉と文学のマッチングを考え、回遊性を求める地域巡りも考えられる。

非採算性の理解は、予算を伴うので市民・議会・執行部の三者が理解しえないと、無用の美術館となる。

以上